

## 令和 6 年 12 月 24 日市長定例記者会見 会見録

### ◆司会

はい。それではただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。  
市長、よろしくお願いいたします。

### ◆市長

はい、よろしくお願いいたします。今日は、発表案件が多いので、少し早めに始めさせていただきます。

まず、令和 7 年度に向け新たなチーム組織を設置ということですが、令和 6 年度から、縦割り組織にありがちな組織の横の連携不足、これは静岡市の弱点なわけですが、横の連携不足に陥らないように、複数の局が連携してやれるようにということでチーム組織を作ってきました。チーム組織は、組織は縦割りであるわけですが、それを変えることなく、それぞれの縦割りの局あるいは部・課から人を出してもらって、チーム編成、目的に応じてチーム編成をするというものです。現在 17 のチームを設置していますけれども、今回 3 つのチームを増設しましたので、その中身についてご説明をいたします。

一つ目は、しずおか地域クラブ活動推進プロジェクトチームということです。これは「しずかつ」という名前で行われていますけれども、今、中学校の部活動が、少子化に伴う部員数、あるいは部活動の種類の数、これが減ってきています。それから、教員の働き方改革の関係で、この部活動を学校の先生方が、とりわけ土日、これを指導していくのは、なかなか厳しいという状況もあって、今の状態ですと、中学校の部活動の指導の部分が、持続可能とは言えない状況になってきています。このため、国も令和 5 年から 7 年までを「改革推進期間」と位置づけて、活動の場を部活動から地域クラブへ移行する、地域移行と言っていますが、地域クラブ活動へ移行する方針を示しています。静岡市も、教育委員会が部活動に代わる地域クラブ活動への創設を検討してきました。これまで、教育委員会が何と言ってきたかという、令和 8 年 8 月からは、休日を地域クラブでやる、学校ではなくて地域クラブで、地域で部活動を行う。それから令和 12 年 8 月から、平日・休日ともに地域クラブで展開するということを発表していました。今年すでに実証実験を行っています。ただ、この状態ですと、令和 12 年 8 月まで平日と、例えば、休日の部活動を地域クラブに移行すると、土日は地域クラブでやるんですけども、平日は部活動ということになるので、平日と土日で指導者が違うということになります。そういった混乱が生じる状態が、平成(注：令和)12 年 8 月まで残ることになります。これでは駄目だろうということで、この現状の課題を解決して、中学生がスポーツや文化芸術活動に

気楽に、気軽に楽しむ機会を持続的に確保するための道筋、これを早期に確立して、そして、それを市民の皆様や、あるいは地域クラブに関係する方々に、市の考え方とか、予定を早くお知らせする必要があります。そのときに、地域クラブの運営ですけども、これはもう学校ではなくて地域がやるということ、あるいは社会全体でやるということになりますので、教育委員会の所管ではなくて、市長部局の所管でやる必要があるということを確認いたしました。

したがって、今まで教育委員会で取り組みをしていましたが、ここで改めて、スポーツ、文化、生涯学習等を担当する様々な課が、一体となって市長部局でこの取り組みをしていくということで、この「しずおか地域クラブ活動推進プロジェクトチーム」というのを発足しました。

それで、保護者の方々、あるいはこれから中学生になろうとされている方々、いつから地域クラブになるんだろうかな、自分が中学に入学するときに、部活動でやるのか、もう初めから地域にあるクラブ、スポーツクラブとか、いろいろ学校以外でクラブ活動しているところがありますから、そっちを選択したらいいのか、どっちかなというのを悩む可能性がありますので、早めにお伝えをしていく、市の方針を伝えておく必要があると思います。神戸市でしたか、先日令和 9 年から移行するというのを発表、確か令和 9 年だったと思いますが、発表しましたが、静岡市も早く発表しないといけないと認識をしています。

したがって、地域クラブへの転換の基本的な考え方は、令和 7 年の 1 月に公表したいと思っています。来年の 1 月ですね。これまでの教育委員会が言った、令和 8 年 8 月から休日に地域クラブ、そして、平日は今までの部活動、学校の部活動のまま、平成(注：令和)12 年 8 月から平日・休日ともに地域クラブという考え方を撤回いたします。改めて来年の 1 月に、いつから地域クラブに移行するかという方針を明らかにしたいと思っています。

だいたい方針は固まっているんですが、まだまだ完全に発表できる状態にありませんので、来年の発表にいたしますが、令和 12 年のような、そんな時間をかけてじゃなくて、できるだけ早いときに、地域クラブに移行したいと考えています。

続きまして、静岡市の観光基本計画の策定です。この観光ですけども、観光振興ということですけども、これは市役所が何とかやるという話じゃなくて、社会全体の力で魅力を高めていって、より多くの方々に来ていただいて、楽しむということが大事です。そうすると、社会全体の力で地域の観光の力を高めていく必要があるの、あるいは観光の魅力を高めていく必要があるの、そのためには、観光振興の基本的な考え方や方策について、関係する多くの方々の共感を得て、観光振興に取り組んでいく必要があります。

したがって、観光基本計画というのを策定しました。この計画は、計画の位置づけですけれども、第4次静岡市総合計画、4次総ですね、昨年3月に策定した4次総の中の個別計画に位置づけをされます。4次総の中で、この観光について少しだけ記述がありますけれども、大枠だけが掲げられていて、具体的な中身は掲げられておりません。ずいぶん前に策定した観光基本計画があるんですけど、観光基本戦略のようなものがあるんですけど、それはもう使える状態にないので、事実上、観光基本計画が、静岡市はない状態にありました。あるいは、インバウンドは、今増えてきています。外国からのお客様が増えてきていますけれども、それについての振興計画もないという状態でした。

したがって、今回、この観光基本計画を定めて、そして、これを社会に提示して、みんなで一緒に共創、共に創るですね、これで観光の魅力を高め、地域の魅力作り、あるいは地域の活性化を進めていこうというものです。

この計画期間は、12月から2031年の3月、2030年度になります。中身はちょっと省略しますが、発表事項が多いので省略しますが、今の静岡市の観光の現状と課題ということですが、まずは観光客の滞在時間が短いというのと、宿泊の割合が低いということがあります。

もう一つは、この消費額を見ていただくと、旅行者一人当たりの消費額ですが、これは全国が44,000円に対して、静岡県が22,529円になります。静岡市は約その半分ですね。全国の平均と比べると30%ぐらいしかないという状態ですので、観光客一人来ていただいても、旅行者一人来ていただいても、地元にあまりお金を落としていただけないという状況にあります。これを変えていかないといけない。なぜこれだけ低いかということですが、宿泊が少ないんですね。細かいデータは除きますけど、宿泊数が非常に小さいということになります。これが大きな問題ですので、これについて、これから取り組んでいこうということになります。

この計画の基本理念というところですが、目標値を先に申します。目標としては、今の、現状一人当たりの観光消費額が24,910円ですので、2030年为目标ですけど、32,000円にしよう。それから、観光消費の単価ですが、これは現状、これは、日帰り客は4,000円程度、これを7,200円に上げよう、あるいは宿泊者については、まず現状で200万人程度ですけど、これを330万人にしよう、そして、単価も上げていこうと、こんな計画です。

具体的に何をやるかということは、いろんなことが書いてあって、これを説明すると非常に時間がかかりますので、今日は省略いたしますが、こうやって観光基本計画をしっかり作って、何をやっていくかということを明らかにして、みんなでこれでいきましょうよ。例えば、ホテルの宿泊者が少ないので、ホテルの数が少ないということもありますから、ホテルも増やさないといけない、ホテル

に泊まったときの単価を上げていかないといけない、そういったことをこれから進めていきます。具体的には、基本計画ですね、これ、パブリックコメントも実施しましたので、ぜひご覧いただければ、とりわけ観光に関係する方々はご覧いただければと思います。

続きまして、東海道 57 次市町連携協議会の設立です。東海道 57 次というので、おやと思われる方がいらっしゃると思います。やはり歌川広重の「東海道五十三次」があまりにも有名で、東海道は 53 次だろうと思われると思います。しかし、京都まで行くのは 53 次なんですけども、大阪に行く東海道は 57 次になっています。これは 1624 年に三重県の庄野宿っていうのができました。それで、京都までが 53 次、そして大阪までが 57 次という体制が完成しました。1900 …、ごめんなさい、1624 年に、この 57 次体制が確立しましたので、今年が 400 周年ということになります。この節目の年に、57 次ということについて、もっと多くの方に知っていただいて、そして、この 57 次全体の誘客、観光振興を図っていこうということで、沿線の自治体と連携して協議会を設立することにいたしました。

この協議会の事務局は、東海道の 57 の宿場のうち最も多い 6 つの宿場を持っている静岡市が担うことにしました。設立目的は、今申し上げた通りなんですけども、はい、上に上げて、最初は全部で 11 の自治体、東京、神奈川、全ての県が入っていますけど、京都はちょっと抜けていますけども、大阪まで、この 11 の地方公共団体でまず始めようということになります。ちょっと 57 次、出してくださいませんか。この 57 次なんですけど、ちょっと見ていただくと、静岡はこのあたり、蒲原・由比・興津・江尻・府中・丸子になりますけども。ここですね。静岡はここです。大津の先ですね、ここ大津が 53 で、ですから京都に行くところは 53 次になっていますけども、大阪までは 53、54、55、56、57 次、森口で 57 次目になりますので、こういうルートが 1624 年に確立しています。

したがって、こちらの起点は江戸・大阪になりますけど、宿場は 57 ありますから、この沿線の 57 次の自治体が協力をして、これから東海道 57 次、53 次を含めて東海道観光というのを盛り上げていこうということでございます。

お手元の資料ですね、これはずっと、この 57 次については、志田さんという方が蒲原出身の、JR 東海におられた方なんですけども、志田さんがずっと提唱されていて、文献を調べたりして、この志田氏提供になっていますけど、この志田さんが調べられて、57 次というのを、世にどんどん、どんどん送り出しておられました。その志田さんの心を受けて、お気持ちを受けて、我々としてもしっかり連携していこうということで、57 次の魅力はこんなふうにありますけど、これもちょっと省略をいたします。

志田さんの歩いて学ぶ東海道 57 次、こういう本もありますから、ぜひ参考に  
していただいて、ぜひ今日は、東海道は 53 次だけではなくて 57 次だと思って、  
53 次と 57 次、両方あるんだと思っていただいて、これから我々盛り上げていき  
たいと思っておりますので、ご理解とご支援をお願いしたいと思います。

それから、次は PFAS の状況です。PFAS については、これまで発表してきました  
が、最新の状況、前は 8 月に発表いたしましたけども、今回の状況ということで  
発表いたします。

まず、最初に、この公共用水域全体について調査をいたしました。全調査地点で、  
市内の河川ですね、河川の全てについて調査をいたしました。それで、静岡市の  
河川は、国の定めている、この公共用水域の、ごめんなさい、公共用水域の暫定  
目標値 50 ナノグラム、L 当たり 50 ナノグラムですけども、これの以下でした  
ので、まずはそこは安心をしていただきたいと思います。

その上で、清水にある三井・ケマーズフロロプロダクツ株式会社、MCF と読み  
ますけれども、その工場の敷地内が高濃度の PFAS があって、その影響で周辺  
の地下水、あるいは三保のポンプ場の地下水の濃度が高いという状況にあり  
ます。それについて、これまで低減対策を実施してきましたけども、最近の状況  
について、少し改善が見られましたので、ご報告をいたします。

これまでは、次のページ、ちょっと図を出していただいて。問題は、今、清水港  
の中に、ごめんなさい、清水に三井・ケマーズフロロプロダクツ清水工場という  
のがあります。この中でかつて PFAS を扱っていたので、この敷地内の地下の、  
あるいは敷地内の土壌、あるいは地下水の濃度が、PFAS 濃度が高い状況にあり  
ます。その影響で、この周辺の地下水の濃度が高いという状況にありますが、  
さらに深刻なのは、ここの三井、ごめんなさい、三保の雨水ポンプ場です。これ  
はポンプ場の平均配水量比 13,000 m<sup>3</sup> となっていますが、今、これ、だいぶ低下  
してきていますが、この工場内に地下の雨水排水管というのが、工場の隣接地域  
に、この雨水の排水管が埋められています。そこを通っていくということです。  
このあたりで降った雨が地中に浸透あるいは下水とかで流れて、それが、この  
雨水の排水管に入ってこう出て、このポンプ場からそのまま出ていくという  
状況になります。ここのポンプ場は何も浄化していなくて、入ってきた水をこの  
海に、ポンプで上げて排水をするという状況にあります。ここに、この管路が  
通っていますので、どうもこの管路が老朽化していて、ここから地下水が相当  
入り込んでいるので、ここの濃度が高いということになります。ここの濃度が、  
最大で、先ほどの暫定目標値の 50 ナノグラムに対して、一番高いときは、12,000  
ナノグラムぐらいあるということで、極めて、200 倍を超えるような濃度で出て  
しまっているという状況にあります。

それで、なぜ、ここに、そんな濃度が出るのかという、この管路は雨水が基本通っていつていますから、雨水にそんなに濃度があるわけがないわけですけど、ここの濃度が極めて高いということは、おそらくこの工場内の地下水が、この管路の中に入り込んで、それがここに運ばれているんだろうということを推定しました。MCF がそこについて調査をして、確かにこの管が老朽化をしていて、穴が開いたり、あるいはひび割れが入ったりして、ここから地下水が、これに相当量流入していました。これを、その流入を止めるということが極めて大事ということですので、この排水管を、こちらとこちらの排水管の補修を MCF がしてきました。

結果的にどうなったかということですが、一つちょっと上、下…、ごめんなさい、そこですね。今の所…、ごめんなさい、それじゃないですね、活性炭ではないですね。別紙 1 をお願いします。これ、別紙 1 ですが、この三保雨水ポンプ場への流入時の濃度ですが、ここで今年の 4 月 2 日、12,000 ナノグラムというのがありました。その後も、日によりますが、6,000 であるとか、10,000 であるとか、大体 4,000 から 12,000 の間でした。このあたりから補修を始めて、下がってきました。濃度が少しずつ下がってきました。このところですね、相当量下がってきたんですけど、ここを見ただけだと、この 10 月 30 日以降 1,200、3,000、2,000、2,000、1,000 となっています。これは、あまり細かい数字を出しても意味がないので、1,000 か、2,000 か、3,000 か、12,000 かというぐらいで見ただけであればいいんですけども、最近ですと 1,000 から 2,000 の間で、大体下がってきました。

したがって、最大 12,000 出てきたのが、今この 2,000 ぐらいの、1,000 から 2,000 ぐらいの濃度まで下がってきています。これと一緒に、先ほど穴が開いて地下水が雨水管の中に入ってきていると言いましたが、それも蓋をしたので、流入量ですね、流入量が 1 日 13,000 m<sup>3</sup>、最大って言っていたんですが、これも相当、今、減ってきました。雨水排水管と言いながら、実際には MCF の地下水がどんどんどんどん入り込んでいたという状況にあります。これを解消しましたので、まずはポンプ場に入ってくる濃度が下がりました。

それから、もう一つ、元に戻ってもらって、もう一つは活性炭をつけましたので、中型活性炭塔というのを整備しました。これで、この活性炭で、例えば、最近で言うと、活性炭の通過前 1,000 とか 2,000 あったものが、これで、ここがいいですね、1,000 あったものが、活性炭を通すと 10 以下になるという状況になりました。これの、ここのポンプ場の活性炭の処理能力は 1 日 720 トンですので、全量が、今、処理できているわけではないですけども、流入量が 12,000 トンではなくて 2,000 トンから 3,000 トンであれば、これによって、この 720 トンによって、かなり量が抑えられる、濃度が抑えられるという状況にあります。

少しずつこうやって、まだまだ十分ではありませんけども、少しずつ、このポンプ場からの濃度が減っているという状況です。

それからもう一つ、A ホールディングスの関係を申しますと、この株式会社 A ホールディングスと提携いたしましたけども、今回、出資制度を、グリーン トランス フォーメーションの推進に関して、市が出資制度を作りましたけども、第 1 号出資が、この A ホールディングスは、静岡市内に設立をした駿河 GX テク ノロジー株式会社というところを、第 1 号案件として、今回、出資を決定いたしました。出資は 26 日の予定です。出資金は 1,500 万円を予定しております。出資比率は 14.3%ということになります。これから、この会社がいろいろ活動 して、この会社の価値を上げていただくと、出資額以上の資産価値が静岡市に もたらされるということになります。以上が PFAS に関する取り組みです。

それから令和 6 年の静岡市政に係る主な出来事ということですけども、これに ついては、こちらで整理をしています、図を見ていたら…、これですね。

1 月に能登半島地震があって、それに対する市からの支援を行いました、その 後いろんなことがありましたけども、静岡マラソンを、3 月に静岡マラソン 5 年 ぶりの開催ということです。快晴にも恵まれました。それから、プロ野球くふう ハヤテベンチャーズ静岡ですね、このシーズンが開幕。それから、クルーズ船 も非常にたくさん入ってきて、クイーン・エリザベスの 3 代目が清水港に初寄 港しています。それから、庁舎の耐震性の発表であるとか、あるいは屋内型の 子どもの遊び場の充実というのを発表しましたが、5 月に西河内、それから 7 月 には JR 清水駅の西口、10 月水見色、11 月に M20 という JR 静岡駅の再開発ビル ですね、駅近くの再開発ビル、ここでオープンをしています。まだまだ、これ から充実をさせていきますので、静岡市、子どもの遊び場がない、屋内型のが ないということは、多くの方々が言われていましたので、相当程度改善していま す、まだまだですので、特にこの中心街に少ないということがありますので、 これから増やしていきます。

それから 6 月、南アルプスユネスコエコパーク登録 10 周年ですね。あるいは知・ 地域共創コンテストというのを始めました。それから、7 月には地方大学・地域 産業創生交付金の採択ということで、駿河湾の海洋 DX 先端拠点化計画、これは 理工科大学と静岡大学と東海大学、三つが連携をして、これから、あるいは大学 と、それ以外の経済界・産業界が連携をして、静岡市を、静岡県静岡市を駿河湾・ 海洋 DX 先端化、先端の拠点にしていこうというものです。

それから、静岡市の場合は土地の活用が十分でないということで、この公社を 設立しました。それから 8 月ですね、それから人口の将来推計、これも実施しま した。それから後で、今日の今年の一文字というのを発表いたしますけども、

こういう災害時の協力駐車場ですね。水害時に緊急避難を協力する駐車場、これは曲金じゃなくて、駿河区にあるコンコルドさんが、まず最初に協力してくださいましたが、そういった民間の駐車場を災害時の緊急避難の駐車場にしようと、協力をする駐車場。それから、もう一つは井戸ですね。災害時の協力井戸、こんなこともやりました。

それから、10月には、宮川・水上の土地の区画整理事業工事に着手しましたが、あるいはアリーナの基本計画の公表、清水エスパルスのJ1昇格、これは嬉しいニュースがありました。それから、水鳥さんの静岡市市民栄誉賞の授与ですね。教育大綱の策定ということがあります。

最後、まだこれ終わっていませんが、KEIRIN グランプリがこの年末に開催されますので、ここで多くの方に来ていただきたいと思います。

これが、今年、こんなことがありました、ということをもとめました。

それで、全体的にということですけども、いろいろな大きな問題ありましたが、今年の1月に、今年はどんな、今年1年どうしますかということで、今年の一文字というのを発表して、その時は共創の「共」ですね。去年は新しくいろんなことを創っていくということで、創るっていうことを去年の一言に、一字にしましたけども、今年の年頭は、共創の共、共にっていうことを発表いたしました。

今日はこれですね、今年の一文字ということですけど、やっぱりこの共で、共にということで、変わらず。1年間、年頭から共創、共に皆さんで良い社会を創っていきましょうということをお願いしましたけども、年末にもいろんな形で一緒に社会を良くしていこうということが進んできたかなと思っています。多くの皆様のご協力に感謝をし、やはり社会全体の力で静岡市を良くしていきたいと思っていますので、来年もよろしく願いしたいと思います。

以上が発表になります。ちょっと発表長くなりましたが、以上です。ありがとうございました。

#### ◆司会

はい、それではですね、今日は幹事社質問3問いただいているんですけども、2問はただいまの発表に関するものとお伺いしておりますので、先に幹事社質問をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### ◆朝日新聞

一つ目ですが、すでに答えていただきましたけれど、今年1年を漢字一文字で振り返っていただきたいと思ったのですが、それは「共」ということで、はい、ありがとうございました。理由とあわせて教えてくださいと、お願いしようと



思ったんですが、それも今おっしゃっていただいたので、ありがとうございます。  
はい。

では、二つ目ですが、観光基本計画と関わるのですが、先日 11 月までに日本を訪れた今年の外国人客が最多になったという日本政府観光局の発表がありました。静岡市のインバウンドの現状認識と今後の課題について聞かせていただければと思います。

#### ◆市長

はい。静岡市は、インバウンドは完全に出遅れ状態になっています。データが必要だと思いますので、割合を申しますと、静岡市の人口は全国比で大体 0.6% ですので、経済的な力からいっても 0.6% か、もうちょっと高いかぐらいだと思います。その中で、インバウンドがどのくらいのシェアにあるかということですけど、これは 0.07% ということで、一桁違うということです。

したがって、インバウンド、外国人のお客様が静岡市にあまり来ていただけない状況にあります。清水港でクルーズ船が非常に活発で、来年は 100 隻を超える船が来てくれるのではないかと期待をしていますが、そうやってクルーズ船は活発なんですけれども、一般のお客様は、なかなか来ていただけないという状況にあります。日本は、一方で、日本はどんな状況かというと、例えば、京都が典型的なように、オーバーツーリズム、観光客がたくさん来すぎて、来すぎてというのは、ちょっとあれですね。オーバーですから、来すぎてと言っているかもしれませんが。それで地域の生活と地域住民の方々の生活に支障が出るような状態が発生するぐらい、インバウンドのお客が多いという状況ですが、静岡市を見ていただくとそんなことは全くないわけです。やはり、これから観光というのは非常に地域の活性化、あるいはその地域の魅力づくりのためには非常に大事ですので、インバウンドのお客様をしっかりと静岡に来ていただくようにしたいと思っています。

先ほどの観光基本計画の話をいたしましたけども、この観光基本計画もない、インバウンドの振興計画もないという状態でしたので、ある種思いつきで、今までいろんな政策、取り組みをしていたということになります。やはり、それでは、しっかりと観光振興できません。そして、インバウンドもそうですけども、観光振興は静岡市政が何かやるというんじゃなくて、社会全体の力が問われるわけです。例えば、滞在した場所の魅力があるかどうか、茶畑に行ったときに、ティーツーリズムというのは、今ずいぶん、京都でもそうですけども、注目されていますけども、その茶畑に行ったときに、ちゃんとしたもてなしがしてもらえるのか。あるいは宿泊施設、宿泊施設について、十分な量と質の宿泊施設があるのかどうか、こういったところが実際には問われることになります。

まだまだこのティーツーリズムですね、やっと市も力を入れて感動体験のまち創造事業ということで、茶畑の景観とか眺望や茶農家の方との交流を楽しむという、このティーツーリズムの推進をしていますけれども、まだまだ始まったばかりという状況にあります。ただ、手応えはものすごく感じていますので、このティーツーリズムについては伸ばしていきたいと思っています。

それから、インバウンドに関しては、やはり宿泊施設が不足しています。とりわけ、少し客室単価の高いホテル、旅館。1 人一泊 3 万円以上というようなところが不足しているという状況にあります。外国人のお客様ですね、今、東京のホテル 3 万円って言っても、普通のビジネスホテルが、今 3 万円ぐらいしたりするような状況ですので、お客様は、やはり質の高い、特にインバウンドのお客様は質の高い客室を求めている層がかなりあります。そういったところの方々に対して、ホテル、宿泊施設を提供できていないということが、静岡市の観光の弱点になっていますので、そのあたりについても、しっかりやっていきたい。実際に、そして、静岡に新しく、いわゆる高級ホテルをつくりたいという声を、いろいろ聞いていますので、聞いているというより、我々のところにつくりたいんだけど、どこかい場所がないかとか、そういう問い合わせは、いろいろ来ていますので、そういったチャンスが今来ていますから、そこを逃すことなく、ホテル、とりわけ高級ホテルの立地を促進していきたいと思っています。

それから、これからですけども、どこをターゲットするかということですけども、やはり訪日需要で安定している台湾であるとか、あるいは、これから伸びが期待されるタイ。それから、新たに静岡空港、富士山静岡空港に定期便が就航した香港ですね。こういったところ。あるいはオーストラリア、こういった辺りのところを重点的なターゲットの国として、これから積極的に取り組んでいきたいと思っています。観光については以上です。

#### ◆朝日新聞

ありがとうございました。では、幹事社質問で 3 問目ですが、リニア中央新幹線の整備事業について、先日 17 日の県の専門部会で、高速長尺先進ボーリングの、今まで掘ってきたのを止める、止めた経緯について説明があり、ツバクロ発生土置き場のことについても、了解がなされました。これらの議論を踏まえて、静岡市として JR 東海に求めることを聞かせていただけたらと思います。

#### ◆市長

はい。まずボーリングに関してですけども、前回の記者会見で、JR 東海はしっかり記者会見をすべきだと、市民に対して説明すべきだということで、私の

考えをお話したんですけども、どうも言い方が悪くて十分伝わらなかったところがあります。報道によると、JR 東海は市民に直接説明するべきだということが書かれていたのが大半と言った方が事実だと思います。

改めて申しますと、私は、そういうことは言っていないくて、JR 東海は記者会見をしっかりとやるべきだということを申し上げました。それで記者会見をすると、こういうところで、この YouTube の配信もしていますし、あるいは皆様方が、報道機関の皆様方が記事をお書きになって、あるいはテレビの報道をして、それで市民がどういう状況かとわかるので、やはり、記者会見を、社長であるとかあるいは技術の責任者であるとか、そういう方がしっかりとられるのがいいんじゃないですかということを申し上げました。その考えは今も変わっていません。市民説明会を JR 東海がすべきだということではなくて、やはり何らかの形で、どういう方法でやるかというのは、JR 東海が考えればいいと思いますけども、やはりツバクロも、ごめんなさい、高速長尺先進ボーリングを中断して、そして、先進坑は、この県境付近まで進めていくというお話であれば、JR 東海が、事業実施者である JR 東海が、きっちり説明を、記者会見等ですべきだと思っています。そのときに申し上げたのは、市が説明を受けたかということですけど、市が説明を受けて、そして、いや、私、例えば、私が説明を受けて JR 東海はこんなことを言っていましたよ、なんて説明をするのはちょっと変で、それは JR 東海が自ら記者発表すべきでしょうと。あるいは会見をすべきでしょうということを申し上げております。

それからもう一つ、ツバクロ発生土については、県の専門部会でおおむね了解ということですが、これについては、ツバクロの盛土については静岡市の協議会の中で、もう1年近く議論を進めてきています。それで、大体、盛土の設計、まずは地滑り、あるいは、深層崩壊の量をどのぐらいにすべきだとか、それが落ちてきたときに土砂ダムがどのように形成されて、災害危険度を、どう上げていくんだとか、そういう細かい詰め。

それから盛土の耐震設計ですね、断層も考慮したような形での耐震設計をしておりますので、大断層というよりも、あそこで起きるであろう最大限、最大強度の地震動を入れて設計するというようなこともやっておりますので、そういった市の協議会での取り組み状況を県の専門部会でも参考にさせていただいたんではないかなと思っています。

ただ、まだツバクロ盛土の安定性については、最後の詰めというところは残っていますので、今、JR 東海と、そして協議会の委員の先生、あるいは市の職員をはじめ協議をしておりますので、来年早々にはまた協議会を開いて、ツバクロ盛土については結論を出していきたいと思っています。そんな状況です。

◆朝日新聞

ありがとうございました。高速長尺先進ボーリングの方ですが、先日、県の専門部会でいろいろ経緯の説明をしてはいましたけれど、それとは別に記者会見をするべきだという考えということですか。

◆市長

県の専門部会というのは、結局あれは県の専門部会の方々に説明をしているだけであって、確かにそれは傍聴できる状態にあったとしても、それは社会に対して直接説明した形にはなりませんので、やはり社会に直接というところがちょっと誤解を生じてしまう可能性ありますけど、市民説明会をということじゃなくて、協議会に説明するんじゃないくて、JR 東海が自らの意思でもって、こういう記者会見なり、場をセットして、そして、こういうことですよという発表をされた方が良いのではないかなと思います。県の協議会でやっているからそれでいいんだということには、ならないと思います。

◆朝日新聞

ありがとうございます。そして、協議会の説明された中身自体について、求めることがありますでしょうか。

◆市長

はい。状況はわかりますけど、あまり私がコメントすることではなくて、やはり JR 東海がしっかり、基本的には JR 東海の説明はわかりますけども、それを私がいいとか悪いとかってということではなくて、やはり社会に対して説明すべきだと、直接説明すべきだと思います。直接というのは会見を開いて行うべきではないかなと、私は思っています。

◆朝日新聞

ありがとうございました。

◆司会

それでは、ただいまの発表と幹事社質問に関連したご質問があれば、お受けしたいと思いますが。はい、NHK さん、お願いいたします。

◆NHK

一番初めに発表があった、しずおか地域クラブ活動推進プロジェクトチームについて、まず伺っていきたいんですが、まずちょっと理解の確認として、部活動

の、地域クラブ化への移行について、前倒しの検討を、今しているっていう、令和 12 年の 8 月からの前倒しを検討しているという理解でよろしいでしょうか。

#### ◆市長

はい。前倒しになりますけれども、もう一つ大事なポイントは、途中までは平日と土日で指導者が変わるという状態は作りたくないということです。段階的に移行するということで、そういう考え方を以前はしていたと思います。まず、できるところからやろう、土日は地域クラブで、平日は学校でっていう考え方で、それをやりながら対応、地域クラブの受け皿が大きくなってくると、全体を平日も休日も地域クラブでっていう考え方だったと思います。

しかし、それをやると平日と土日の指導者が異なって、それは混乱するのは、目に見えていますので、そういったやり方は変えて、やるのであれば最初から全て地域クラブへ移行ということにしたいと考えています。

ですので、何年何月からは学校での部活動はやめて、中学校ですね、地域クラブへ移行という形を、土日・平日含めてするというのが、まず一つのポイントです。もう一つは、全体移行は平成 12 年（正しくは、令和 12 年）って言っていましたが、それではあまりにも遅すぎますので、これから 6 年変化がないといえますか、完全移行までは 6 年かかるということですから、少なくとも半分ぐらいにはしていかなければいけないだろう、というのが基本的考え方です。いつからということはまだ決めていませんけれども、そう遅くない、平成 9 年とか、令和 9 年とか。さっきも平成と言いましたっけ、令和 12 年ですね。令和 12 年でやるというような話ではなくて、令和 9 年とか、令和 10 年とか、その辺りは完全移行ということにしたいと思っています。

なんで、今、早めに発表する必要があるかという、今、例えば来年の春、中学校に入る方が、お子さんが地域クラブに入るのか、学校の部活にするのかどっちを選択するかということは、もうわからない、なかなか選べないわけですね。だから、地域クラブがそれで移行するんだという話があれば、そっちに初めから行けるわけですけど、そこがわからない状況ですと、迷うという状況にあります。2 年生までは部活でやっていたんだけど、3 年からは地域へっていうのは、これも、また、ちょっと混乱することになりますので、そういった面で、何年何月からは全て地域クラブへ移行ということを、来年の 1 月中には発表したいと思っています。

#### ◆NHK

現状は、今、8 月に移行する、これだと 3 年生がちょうど引退する頃ということ

で 8 月かなと思うんですが、8 月以降の路線は、そのままになりそうですかね。年度替わりっていうこともあり得るんですかね。

◆市長

年度替わりでなくて、やはり 8 月とか 9 月というのは一つの考えになると思います。

◆NHK

また、今の中 1 生だと、引退するのが 2026 年の夏ごろ、8 月かなと思うんですが、これより前倒しっていうことってありそうですかね。

◆市長

それはないですね。6、7、8、今の中 1 生は、今のままでずっと続けていただいて、次の中 1 生はどうなるかということを、早めに発表したいと思っています。

◆NHK

わかりました。

◆市長

次のというか、来年の 4 月に入学する中 1 生がどういう状態になるかっていうのは、早めに発表しないといけないので、来年の 1 月には、いつから地域クラブへ移行するというのは、はっきり、市として説明をして、その上でどういうクラブを選択するかですね、学校の部活を選択するか、例えば、地域のチームに入るかということの選択をしていただけるようにしたいと思っています。

◆NHK

この件、ごめんなさい、もう 2 点あるんですが、これ、もし移行した場合、よく言われるんですが、移動、生徒さん、地域クラブに移動する際に自転車か、公共交通なのかとか、そういった議論ありますが、この点の対応、対策、どうしていくのかというのは、いかがでしょうか。

◆市長

それも含めて、これからしっかり考えていかないといけない。そのためには、やはり、少なくとも 3 年ぐらいはいる、考えて、検討とか、少し試行的にやってみるということですね。モデル的にやってみるということは、やっぱりやらない

といけないと思いますので、そのときにどういう問題が発生するのかっていうところを見極めた上で、大体これでできると思ったときからやるということになります。

◆NHK

最後一点、ちょっと揚げ足を取るようで恐縮です。市長、先ほど、神戸市の移行が、令和 9 年とおっしゃったように聞こえたんですが、神戸市のホームページを見ると 2026 年 8 月をめどに終了っていうことになっていまして、ちょっと、まあ。

◆市長

8 年ってことですかね。

◆NHK

令和 8 年の、そうですね、夏頃ですかね。

◆市長

令和 8 年ですね。

◆NHK

すいません、ちょっと

◆市長

失礼しました。ちょっと 8 年は、静岡市の場合は、今までの状況からして無理だと思います。まだ、そこまで検討が整っていない状況です。

教育委員会が一生懸命やってくれていたんですけども、結局、地域クラブに移行するということは、教育委員会の外の仕事になるわけですね。ところが、それなのに教育委員会が、今までずっとやっていたということに、そもそも問題があったということですので、そこを今回改めて、そして、早めに移行するようにしていきたいと思っています。ありがとうございました。

◆司会

はい、その他、静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

今の質問に関連してなんですけれども、確認なんですけど、先ほど、難波市長が

おっしゃったように、令和 9 年とか、10 年の完全移行をしていきたいというお話でしたが、その前に令和 8 年 8 月という時期を迎えると思うんですけど、この時期に休日だけ移行するということはしないっていう理解でよろしいんでしょうか。

◆市長

そうですね。その時期で移行というのはしない。ただし、モデル校的にやってみるというのは、その時点ではやっていますので。つまり、元々の計画は令和 8 年の 8 月には、土日は地域クラブへの完全移行という状態だったと思いますが、それはやらないということです。

ただし、明日から急にこっちに変えますっていうわけにはいかないので、少しモデル校でやってみて、その状況を見ながら進めていくということになりますから、地域クラブで指導をされて、土日、地域クラブで活動している状態というのがゼロということではないですね。モデル校で行われている状況になります。

◆静岡新聞

分かりました。あと 1 点、これも関連してなんですが、実証実験事業をやってこられたっていうのは、いつからやってきたのかということと、いつまでの期間が計画されているのか。で、この実証事業でどういうことがわかったりだとか、把握できたということで、今回の検討に至ったのかっていう、そのあたりをお伺いできれば。

◆市長

時期については、今やっている教育委員会から発表してもらいますけども、一番の問題は、やはり土日ですね。平日と土日の指導体制が違うということは、混乱を招くというのが、やはり多くの方の意見だと理解をしています。

例えば、野球の指導を受けていて、平日の先生は、「こう打て」って言われたんだけど、土日に行ったら、「いや、その打ち方はダメだ」とか言われると、これも混乱しますので。だから、そういうことがないようにしていきたいと思いますので、はい。

◆静岡新聞

はい、分かりました。

◆学校教育課長

静岡市教育委員会学校教育課長の木下と申します。実証事業の時期ですけれ



ども、昨年度、令和 5 年の 8 月あるいは 9 月から、本年度の 7 月までやっておりました。その中で、先ほど市長が、説明を、説明されましたように、説明しましたように、課題が見られたと。現在、11 月から 2 月まで、昨年度とは違った形で、部活動とは関係のない新しい受け皿としての実証事業を、今やっているということでございます。以上です。

◆司会

はい、その他、いかがでしょうか。先に、日経新聞さん、お願いいたします。

◆日経新聞

すいません、この地域クラブの話で、すごい基本的なところなのかもしれませんが、地域クラブというのは部活動という立ち位置になるのか、いわゆる、今でも、例えば、中体連の試合に出るときに、人数が少ない中学とかは合同チームで出ると思うんですが、そのような感じで出るという形のチーム、例えば、作っていくチームになる、例えば、出られる大会が変わってくると思うんですね。クラブチームのような扱いだと、たぶん、中学総体は出られないっていうことになると思うんですけど、部活動の扱いであれば出られるっていうふうに考えると、どの立ち位置になるのかっていうのは…。

◆市長

その問題も、それは、今の中体連と言いますか、この大会の運営も、今の体制の中で検討されていますので、つまり、今の部活動のあり方の中で検討されていますので、この地域クラブへの移行というのは全国的に行われることですので、時期はまちまちですけど、全国的な取り組みとして行われますので、やはりその、大会運営のあり方のようなところは、連盟自身も変えていく必要があるんじゃないかなと思っていますので、そのあたりについては、これから、そういう競技団体、競技団体との話し合いというのも、静岡市が直接やるというよりも、全国的な問題ですので、おそらく全国組織との関係で、いろんな動きがこれから出てくると思います。

おそらく、今の状況ですと、先ほど神戸市が早々と発表しましたけども、だんだんといろんなところが発表してくると思いますので、いろんな市町がですね。そうすると大体状況が見えてくるので、そうするとやはり大会運営というのは変えていかないといけない状況が出てくるんじゃないかなと思います。ただ、そこまで我々としてまだ十分認識をしているわけではありません。

◆日経新聞

ありがとうございます。

◆司会

先に、中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

PFAS の関係でちょっと一点お伺いします。この駿河 GX テクノロジーへの出資比率が 14.3%ということですが、A ホールディングスの出資比率はどれくらいになるのでしょうか。

◆市長

その残り全てです。

◆中日新聞

A ホールディングスと市が共同でということ。

◆市長

だったと思います。ちょっと他のところと入っていましたか。残り全てですね。この後、他のところから出資されてくると思います。当初段階は A ホールディングスと市だけの出資になって、この後、追加でいろんな増資がしてくると思っています。

◆中日新聞

なるほど。ということは、この後、市の出資率はちょっとずつ下がっていく、数字上は。

◆市長

出資比率は下がりますけど、そこに資本がどんどん入ってきていますので、全体の会社の価格は上がるわけですね。そこで、会社の価格が上がった時の出資比率がどうかというところにありますから、目論見としては相当の含み益が出るのではないかと考えていますけれども、はい。

◆中日新聞

確かに、ちょっと含み益たくさん出ていただきたいと思いますけれども。ただ、お金出して終わりっていうことにもいかないと思うんですが、どのように、今後、

経営に関わっていくおつもりでしょうか。

◆市長

我々としては、せっかく素晴らしい技術を持って、静岡市に会社を設立してくださったので、この会社が発展をしていくことが、静岡市の経済にとっても大事ですし、またこの技術が PFAS の除去に関して、革新的な技術になっていますので、これを全国に広げていくことが、これはまさに GX ですね、グリーン トランスフォーメーションに繋がると。社会全体、日本全体、あるいは世界全体のグリーン トランスフォーメーションに繋がると考えていますので、そういった点で、今ある実証実験のプラントをさらに大きくして、実証じゃなくて、社会実装ですね。使える状態にするという状況に、早く我々としては、その状況に移すところにまず協力をする。そこで結果が出れば、その技術を、機械あるいは施設を、全国で、PFAS で問題になっているところに導入をしていくということがありますので、そういったことに協力をしていきたいと思っています。それから、もう一つは、実装のプラントといいますか、実装の施設ですけども、それは A ホールディングス、あるいは、この駿河 GX が作るわけではなくて、製造委託をすることになると思いますので、その製造委託する会社を、なるべく静岡市であるとか、静岡県内の企業にするということによって、市だとか、県全体のものづくりの底上げにも、あるいは経済の活性化にも繋がってくると思いますので、そういった、我々、そういう情報を持っていますから、そういうこと、そういう施設を造りたいんだったら、こういう会社がありますよみたいなことを、今、紹介しているという状況です。

◆中日新聞

ありがとうございます。あの、出資制度で、例えば2号、3号の、1号目決まりましたけど、2号、3号の検討状況などはいかがでしょう。

◆市長

担当のところはいろいろ来ていると思いますが、私の知っているところでは、2号案件、3号案件が今来ています。その中で非常に有力な案件があって、「これ、いいね」というのがありますので、これから審査会にかけたりしていくことになっていきますけども、また新しく審査案件で出てくる可能性はあると思います。

さらに言うと、GX ですけど、BX、ブルー トランスフォーメーションですね、海洋に関するトランスフォーメーション、これについても、今、先ほどちょっと今年を振り返ってで説明をしましたけども、そういった分野でも、やはり、こち

らに会社を設立してやりたいんだ、海洋分野で。という声もいただいていますので、そういうところの技術が素晴らしければ、同じような、今はグリーンですので環境関係の技術革新ですけど、海洋関係の技術革新にも同じようなことをやっていくということもあり得ると思っています。

やはり、静岡市と何か一緒にやると、まさに共創ですよね、共に新しい価値を創ってくれそうだなという雰囲気、今回の出資制度でできていますので、これを、ぜひぜひ、多くの方に知っていただいて、静岡市に立地する企業が増えればと思っています。

◆中日新聞

ありがとうございます。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

先ほどの地域クラブの件で、確認なんですけれど、来年の 4 月に入学する中学 1 年生に選んでもらうというようなお話があったと思うんですが、ちょっと、その意味をもう一度お聞きしたいんですが、まだそんな地域に受け皿とかあるような状態ではないのかなと感じているんですけれど、来年の中学 1 年生に、どんなふうに考えてほしいということでしょうか。

◆市長

例えばですけど、令和 9 年の 8 月以降ということになると、来年の 4 月に入学する人は、7 年、8 年、9 年と学校にいるわけですね。そうすると、自分が学校にいる間は地域移行しない、部活が中心になるっていうことになります。そうすると、部活動を選ぼうという方向になるんじゃないかなと思います。地域クラブないですから。それが、もし令和 10 年ということになれば、明らかに、自分がいる間は地域移行しないわけですね。これが、先ほど神戸市は令和 8 年という話がありましたが、令和 8 年 8 月ですか。神戸市ですと令和 8 年 8 月に移行するとなると、来年 4 月に入った中学生は 2 年生の秋になると、地域クラブに、今までは部活動をやっていたのに 8 年の 8 月からは、2 年生の 8 月からは、地域クラブに移行になるわけですね。そうすると、それだったら初めから地域クラブに入ればよかった、受け皿が今あるかどうかは別です。例えば、野球のクラブで言うと、地域のクラブもあるし、学校の部活動もあるわけですね。どっちを選ぼうかっていうことの選択ができるわけですけども、そのあたりに

ついて、しっかりと情報を早めに出しておくのが大事なかなと思います。

◆朝日新聞

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

PFAS について伺いしますが、今日の発表でもそうでしたけれども、雨水ポンプ場で極端に大きい数値が出て以来、今のやりとりがあった A ホールディングスとの連携をはじめ、そっちに、かなり話がフォーカスしていますけれども、当初、最初に出たときの、この雨水ポンプ場とは関係ない、もう少し周辺の井戸水とかに与えた影響とか、あと、そもそも地中から広がったのか、空中からなのかみたいな話も最初ありましたけども、その辺りの、三保周辺辺りの不安とかに対する、その後の進捗状況だったりっていう辺りは、どのようになっているのかを教えてくださいませんか。

◆市長

はい。ちょっと地図を出していただいて。この中の地下水濃度が高いことは間違いなくて、ここで 12,000ng/L が出ているということは、この中はもっと高い濃度にあるんだろうと思います。薄められて 12,000 になっていますので。そのときに、ここの中の地下水はこの辺り動いていますので、地下水が、地下水の流れはこういう方向に動いているんですけども、基本はですね。潮位で変わりますけど、基本は淡水、地下に海水があって、その上に淡水の地下水が乗っかっています。この地域はですね。淡水の地下水は、こっちからこちらに流れるという状況にあります。ただ、一方的に流れているわけじゃなくて、この辺りでこう広がっているわけです。ここ、これとこちらの地下水、繋がっていますから、ここの地下水とこちらの地下水は繋がっていますので、どうしてもこちらの地下水濃度が高いという状況にあります。周辺ですと、大体 350 ナノグラム、300 から 350 ぐらいのところが多いと思いますけれども。そうすると、やはりここからの流入防止対策をしていかないといけないと思っていますが、それについては、今、この三井・ケマーズフッ素プロダクツが何をやるべきかというのを、いろいろ考えている状況にあります。

ただ、これは会社で考えている状況ですので、我々としては、会社には、その対策をしっかりとってほしいと言っていますけれども、会社が行う対策ですから、

我々から開示するということとはできません。どこかの段階で、こちらの会社がこういうことをやるということを決めて発表するということになると思います。方法としては、まず、この中の地下水も高いですけど、おそらく土壌の濃度も高いので、ここにある土壌の汚染をどうするかという状況、あるいは地下水の濃度が高いので、地下水を、今もやっていますけども、ここから地下水をくみ上げて、先ほどの活性炭で浄化をするということもいろいろやっています。ただ、それであまり効かないと思いますので、ここからこちらへの流出防止対策というのも一つの方法だと思いますので、そのあたりについては、今、この会社が検討中ということになります。

#### ◆毎日新聞

はい。だいが時間が経ったので私も忘れてしまって、私の思い込みでは、水の流れは海側に向かってだと思いうんで、工場より上流側は説明がつかないのかなと、今、思い込んでの質問だったんですが、わかりました。

さっき、私の質問でも、ちょっと言いましたけど、地中だけでは説明つかないぐらい遠くでも出たかなってというような話が、最初出たかと思うんですけども、そのところは、また別の考え方というか、原因分析が必要なんでしょうか。

#### ◆市長

これはもうちょっと分析をしても、わからないってということだと思います。拡散範囲、地下水濃度が高い範囲は、だいたいわかりましたので、50 ナノグラムを超えている場所の範囲もだいたい特定できましたので、そこは地下水を飲まないようにしてください、井戸水を飲まないようにしてください、というお願いをしています。その濃度が高いのはなぜかっていうところは、推定はなんとなくできますけど、特定はなかなかできないと思います。対策を採ろうにもあまりにも広範囲で、おそらく、推定ですけども、前も申しましたが、この辺りの地下水と、もう少しこちらの離れたところの地下水、例えば折戸の奥であるとか、駒越であるとか、繋がっていないんです、地下水は。この地下水の特色で、海水があって、その上にレンズ状の淡水が溜まるという状況になっていますので。皆さん、わかると思いますが、海水の上に、ちょっと止めておきます、長くなりますので。繋がってないですね。繋がってないのに、こちらの濃度が高いということは、別の原因があるということですので、それは、地下水の原因じゃなくて、おそらく空中から、何らかの形で広がったんだと思います。煙突から広がった可能性ありますけども。

したがって、それが、その影響範囲があまりにも広いので、対策をとるというのは不可能だと考えています。

したがって、全国、これほど高いところはないですが、全国的に PFAS 濃度、非常に、何らかの形で必ず PFAS の濃度、出ますから、世界中に広がっているわけですね。大気を通じて世界中に広がっている、南極だとか、北極でも観測されるような状況ですので。

したがって、あまりにも広範囲に広がっているのに、なかなか除去はできない、というより除去は不可能だと思います。

したがって、下がってくるのを待つ、PFAS 濃度が高い水は飲まない、当面それしかできないと思います。その先どうするかっていうのは、これは、もう静岡市が考える状態ではなくて、それは国であるとか、世界であるとかが、そういうところが、この問題どうやるかっていうのを考える必要があるんじゃないかなと思っています。

#### ◆毎日新聞

はい、ありがとうございます。

#### ◆司会

その他、発表案件と幹事社質問に関連したご質問は。はい、では、読売新聞さん、お願いいたします。

#### ◆読売新聞

観光基本計画についてお伺いします。目標値も定められていますので、あれだと思ふんですけれども、計画を策定することで、市の経済発展に繋げていくことが重要だと思うのですが、そのあたりの観点で、市長が期待されていることがあれば教えてください。

#### ◆市長

はい。観光というのは、経済発展にとって非常に重要な分野と思っています。だいたい、ちょっと、今すぐ計算ができませんけども、これだけ 1 人当たりの消費額を増やして、人数をこれだけやると経済効果がいくらっていうのが出てきますので、それが市の経済に与える影響というのは、簡単に試算できる状況にあります。

もちろん、その先にいくと産業連関表なんかを回して、経済効果を出さないといけないですけど、観光の直接消費額、観光の直接の消費額をいくら、それがいくら上がるかっていうのは出てきますので、それは地域経済にとっては非常に大事な分野だと思っていますので、しっかり進めていく必要があると思っています。

◆読売新聞

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、発表案件と幹事社質問に関連したご質問は、以上ということにさせていただきます。

それでは、その他のことで、ご質問があればお受けをしたいと思いますが、いかがでしょうか。はい。SBSさん、お願いいたします。

◆SBS

東静岡のローラースポーツパークについてお伺いします。昨日、利用者に向けての説明会が開かれまして、西ヶ谷総合運動場に代替施設を造るという方針を示されたかと思うんですが、そこで参加された方から、市の進め方だったりですか、西ヶ谷という場所についての厳しい声、反対の声が上がっていたと思います。市長、これからも、そういった意見に対しまして、どのように感じてらっしゃるのかということと、今後の方針についてお伺いできればと思います。

◆市長

はい。厳しい意見をいただいたのは認識していますので、それを踏まえてどういう対応をこれからやっていくか、それについては早急に決めて、また改めてご説明の場を設けたいと思っています。

もう一つ大事なポイントは、利用者にご説明をさせていただきましたけれども、これは社会全体への説明も必要となります。つまり、税金を使って、市の財源を使って整備するものですので、それがいいのかどうかということは、それは市民の皆さんも関心があることだと思います。

昨日いただいたご意見については、公開すべきだというご意見もあったようですが、元々我々としてはその議事録は公開するつもりでしたので、こういう議論がされているということはしっかり公開をして、市民の皆様がどういうふうに反応されるかというのは伺いたいと思っています。その上で、どうするかということになります。

ただ、私の態度が悪いとかいろんなご意見もあったようでありますので、今までそんな事言われていないので、結構ショックを受けていますけども、そういったご意見もあるということを踏まえて、態度を改めないといけないんではなかろうかと思います。態度が悪いというのは、その受賞をした方をお迎えをしたときに、やる気がなさそうだったとかって言われていますので、私、いろんな



受賞者の方、何回もお越しをいただいて、「いや、本当にもう素晴らしいね」って言っているんですけど、態度が悪いと言われたのは初めてですので、それはちょっと本当、相当ショックを受けていますけど、これ、そういうふうを受け止められるということは、そういうことだということです、改めないといけないと思っています。

◆SBS

今後も西ヶ谷に代替施設を造るという方針自体は変わりなく進めていかれるということでしょうか。

◆市長

西ヶ谷は、いろんなところを候補にしていましたが、やはり、はっきり申し上げると、地域から受け入れられる場所でないと成り立たないということです。どんな施設でもそうですけども、一時、最近はいなくなりましたが、保育園であるとか幼稚園が立地するとしても、地域からそんな子どもが騒ぐような施設は受け入れられないということで立地できないというような状況がありましたが、ですから、立地をするときには、やはり地域から受け入れられるような場所に設置していかないといけないということです。それで、いろいろと探してみましたが、でも、最後、今、スポーツ施設がある西ヶ谷ですね。ここなら大丈夫だということで提案をさせていただきました。正直申し上げて、ここしかないと思っていますので、西ヶ谷を変えるという方針は、変更は、これからするつもりはありません。

ただ、整備内容であるとか運営方法ですね、この辺りについてはご意見もいただきましたので、変更は考える必要があると思いますが、その一方で費用がかかるものですから、そのままやるべきかということになると、それは利用者の方はそれがいいとおっしゃいますが、それ以外の方々はそうではないという意見もちろん存在するわけで、つまりスポーツというのは、ローラースポーツもありますけど、それ以外のスポーツもあって、それ以外のスポーツに対して市がいくらお金をかけているのかというところを見た上で、ローラースポーツに対して、こういう施設をつくるということがいいのかどうかということですね。正直申し上げますと、障がい者施設ですよ。先日、IAIさんが、障がい者スポーツのパークですね、フットサルであるとか、バスケットができるコートを造られましたけども、それは庵原に造ったわけですね。その障がい者の方々が、自分専用で使える施設っていうのは、市内には存在しないわけですね。したがって、スポーツをやる施設ですよ、それはなかなかない状況ですので、それについては、IAIさんはやってくださいましたけど、市としてもやっていか

ないといけないわけです。それについても手がついていない状況なわけです。したがって、ローラーパークについての、それは、今ある施設の代替ということで必要ですけども、それについてどこまで費用をかけて、どんなものをやるかについては、他とのバランスがありますので、それを考慮した上で考えていく必要があると思っています。

#### ◆SBS

すいません、続けてもう一点別件なんですけれど、宮川・水上地区の土地利用に関してなんですが、昨日でパブリックコメントが締め切られたと思います。今回のパブリックコメントを終えられてのご所感と、改めて、明日、審議会もありますけれど、今後の条例の一部改正、条例の指針の一部改正など、進め方について教えてください。

#### ◆市長

はい。パブリックコメントの内容については、まだ私、十分把握をしていないので、ちょっと申し上げられないんですけど、正確なところは申し上げられないんですけども、大きな反対はないと考えています。早く進めるべきだということご意見が多いという認識をしています。

これからのスケジュールですけども、それを踏まえてできるだけ早く供用するのが大事、あそこにいろんな立地が進むのが大事だと思っています。前の改定するときも申し上げましたけども、行政のスピードでやっていると、立地をしてもらえない可能性があります。行政のスピードですと10年後にできますとか、あるいは8年後にできます。そこからどうぞ立地をしてください、みたいな話を平気でするわけです。そんなことをしたら、いや、6年後にもう1回来てくださいと、つまり、この土地がこうなんですけど立地しませんか、という話を言ったら、いやそんな先の話はうちは検討できませんよと、4年後に来てくださいと、そんな話になってしまうわけです。やはり、その企業立地に話がいけるのであれば、4年後にはできますとか、4年後には工事に着手、例えば建物を建てるのであればそれに着手できますとか、そういう話ができないと、交渉にもならないわけです。

したがって、スケジュールをしっかり固めて、それについては予算も集中投資しないといけないですので、厳しい財政状況ですけど、せっかくなので、あれだけの広大な用地というのは本当に、前も申しましたけど、静岡市にとって最後のチャンスぐらいの用地ですので、それを有効活用するためには、できるだけ早く場所を共用、共用というのは、施設を建てられる状況につくり上げるということ。そして、いつからはそういう状況になりますよ、っていうことを明示する

こと、これが大事だと思っていますので、来年の予算、来年度予算を決めていくことになりますけど、その中でもきっちりと予算を確保して、そして企業の方々が失望しないように、これ魅力あるなど、ここに立地したいな、と思うような状況を明示していきたいと思っています。

ただし、実際のそこの事業は組合がやられることですが、その関連で公共事業は道路を造ったり、そういうことが発生しますので、公共側が足を引っ張らないようにするというのが極めて大事だと思っています。

#### ◆司会

はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

#### ◆静岡朝日テレビ

静岡市清水区で水道管が破損して漏水が相次いでいるんですが、難波市長が考えている今後の対策などが、もし決まっていればお願いします。また、併せてご所感をお願いします。

#### ◆市長

これは、老朽化対策が極めて遅いということは、去年からずっと言っておりました。最初に、去年の4月に市長に就任をして、その後すぐこの耐震化の状況といいますか、老朽化対策についてのスケジュールを聞いて、本当に驚愕をしました。60年かかりますとか、それぐらいの話なわけです。あるいは80年かかりますぐらいの話ですね。ただ、それは例えば毎年、ちょっと数値細かいのは忘れましたけど、毎年1.2%ずつ改善をしていきますっていう計画にすると、全部変えると、今、ゼロだとするとですよ、80年かかるわけですよ。それぐらいのペースでやろうとしていたので、それは駄目だということで、まずは加速するということを決めました。それは去年の5月ぐらいだと思います。

今度は、それでやり始めたんですけども、今年の能登半島の地震を受けて、液状化対策、とりわけ地震、大規模地震が起きたときに、重要なルートの耐震化をしっかりとやっていかないといけないということが明確になりましたので、そうすると、全体は60年、80年かかる計画だけど、それは加速もちろんする計画になっていますが、大事な管の、例えば病院に行くルートだとか、避難所に行くルートだとか、これの耐震化率はどうなっているのかっていうことの詰めをやることにしました。それは、今の大石管理者が、しっかりと上下水道局の大石管理者がしっかり見てくれて、いろいろ検討をしました。

そうすると、まんべんなく耐震化、面で耐震化をしているので、この重要ルートの耐震化率っていうので言うと0%でした。つまり、全部線が通らないと耐震化

率、そのルートは耐震化にならないわけです。いくら面でやったって、この1本のルートが通っていなかったら、耐震化になっていない。それで0%が判明したので、これをまんべんなく耐震化するんじゃなくて、重要ルートだけ耐震化するということで変えました。

したがって、そういう流れでこれからやっていきますので、もう一度申しますと、まずは重要ルートの耐震化を進める、静岡市は極めて遅れています。耐震化率であるとか、老朽化対策が遅れています。さらに、はっきり申しますと、有収率という収入の率ですね。水が給水所から出た水でいくら収入になるのかっていうレベルですけども、収入として回収できるかというレベルは、これ政令市の中で最低です。それはなぜかって、途中で漏れているからです。漏れているから、収入にならないわけです。だから、静岡市の上下水道局の今の状態というのは、非常に老朽化対策が遅れているという状況にあります。それはしっかり認識をした上で、この巻き返しを図っていかないといけないんですけども、これは今、早急に対策を、大石さんを中心にやっていますので、中心じゃなくて大石さんの命のもと、今、やっていますので、来年の予算にもそれを反映していくということです。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございました。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で、本日の…。

◆市長

ちょっと、最後に。

◆司会

はい、すいません。

◆市長

ちょっと、最近ワイドショーネタになってしまっているのを、ちゃんにご説明をしておきたいと思いますが、まずですね、ルノアール像に関してなんですけども。まずですね、ちょっと関係ない話をしますが、私、静岡市と関わりを持って、静岡県と関わりを持って11年になります。なぜ、静岡市に来たかという、三保松原の、これが世界遺産になりましたが、あそこに波消しブロックがあって、

波消しブロックが景観を害するということが問題になっていました。そこで、外部の専門家を招集して、それをしっかりと対策をとっていこうと。そのとき、私は国土交通省の技術総括審議官というのをしておりましたが、なぜ私がここに呼ばれたか、それは川勝、当時知事が呼んでくださったんですけど、なぜかという、昔はこういう海岸線があって、ここに波消しブロックあるんですけども、この後は海で、ここで完全に分断をするような状況になっていました。これ、カミソリ堤というんですけど、別名ですね。

次、お願いします。その下をお願いします。そういう状態じゃ駄目だということで、こういう斜面形にして、前に砂浜をつくるという面的防護と言いますが。さっきのはカミソリの線で防護するんですけど、面的防護をするとなりました。見ていただいたらわかりますけど、ここに階段式の護岸だったりあるんです。色を塗っているんです。つまり、当時の国土交通省、運輸省、これ 2000 年頃です。当時の運輸省、建設省ですけども、景観配慮をするという、こうやって斜面にして色を塗るんだと、これが景観配慮だと、これぐらいのレベルでやっていました。

前に戻してください。これじゃ駄目なので、次あげて、これ、見ていただくと階段になっていますね。つまり、さっきのようなカミソリじゃなくて階段になっているので、ここで関係性が作れるんですけど、これ見ていただいて、調和していませんよね。なんでこんな場所に、こんなものをつくるんだっていう話です。当時の人たちは、大真面目でこんなものをつくっていたんです。私はこれは駄目だということで、このつくり方を変えましょうということで、里浜づくりっていう、ここの自然の状況を読み取って、そして、地域の人々の心と砂浜の繋がりを考えて、どういう、ここを姿にしたらいいかという里浜ですね。里海とか、里山ありますけど、心の繋がりのある浜辺をつくろうということで、これを展開していました。2000 年頃です。その状況を川勝知事は知っていたので呼んでくれたことになります。

先ほどの三保松原ですけども、最初に聞いたときは、消波ブロックを偽岩ですね、岩に変えるんだと。偽岩ですから岩に見せかけたものです。変えるんだという計画を示されて、それは絶対に駄目ですと。世界遺産で一番大事なのは顕著で、普遍的な価値と真正性ですね。三保松原というのは一体どういうものなのか、あそこの顕著で普遍的な価値というのは、砂浜があって松があって富士、海があって富士山なわけですね。その価値のところにない岩なんか入れちゃいかんわけですよ。砂浜が大事なのに、そこに景観に配慮することって岩を入れてはいかんわけで、それは絶対駄目ですという話をしていました。

したがって、私は景観についてはずっと今まで勉強してきました。景観だけではなくて、景観をやろうと思ったら、やはり美術だとかデザインだとか、それに

ついては、ある程度知識がないとできないので、私、絵画鑑賞が趣味ですので、絵はいっぱい見えています。もちろんルノアールも見えています。趣味ですから、いろんな本も読んでいます。その中でちょっと紹介しますけど、ここから先がルノアールの関係で、ちょっと関係するんですけども。

上げてください。これですね、私が「実務家公務員の技術力」という本を書きましたが、そのときに 217 ページにこんなことを書いています。これじゃないですね、ごめんなさい、ごめんなさい、下げてください。これは、「日本列島現代アートを旅する」という、こういう本があるんですけど、これは秋元さんっていう東京芸術大学の、当時は大学の美術館館長で、金沢 21 世紀美術館館長ということで、私、知り合いで時々お話なんかさせていただいたりして、最近はこちらとお会いできていませんけど。その中で、この方の本を紹介して、この本の中では抽象絵画の鑑賞方法について、秋元さんがお書きになっているんですけども。そのときに、もう一つ、この本の中で、今回との関係で、関係するのは、この本の 155、56 にこんなことが書いてあるんですね。ちょっと小さいですけど大きくできますか。これは…、ちょっとこっちな。彫刻家安田寛氏と、イサムノグチ氏の作品と設置場所の関係性について書いてあります。ここで関係性が書いてあって、あるんですけども、その中に、ここに書いてあるんですけど、こんなことが書いてあります。ちょっと読みますね。『余談になりますが、今日、現代アートをういた公共物が多数ある中、置かれる場との調和を考えたものが必ずしも多いとは言えません。遠くから見つめた方が良い作品を狭い場所に置いたり、逆に閉ざされた空間で一つ作品を、ただ、ただ広い空間にポツンと置いておいたりしています。それではアートと場所の幸福な関係は生まれません。』つまり、ルノアール像が、彫刻がどこにあるのがいいのかに関係しているわけですね。『ときには、アート作品がただの障害物や風景の邪魔に見えてしまうことがあるでしょう』と。これはルノアール像のことを言っているわけじゃないですよ。『安田(安田寛さん)の作品は、それが、まずありません。彼の彫刻が置かれることで、その場の景観は、より心地よいものに引き立てられます。人工的なビルの中に置かれれば、その建物の役割を物静かに語るモニュメントになり、同時にそこを利用する人の心のよりどころとしても機能します。だから、彼の作品を見た人は、皆幸せな気持ちになるんです』って。これ、すごく大事な言葉だと思いませんか。

で、次。今の、ごめんなさい、これは美術史の関係ですので、ちょっと下げてもらって、いいです。この美術史はちょっと抜きますね。上に行ってください。反対です。これで、同じく、この「実務家公務員の技術力」の中に書いてあるんですけど、これ私の、もう、ちょっとこちらに、この辺を見たいので。これは、アーティストや建築家の 3 つのタイプというのを、私の個人的考え方をこの

本の中で書いています。上げてください。『アーティストや建築家には、三つのタイプがあることに留意したい』と。『コンテクスト派、これは場の力を読み取り、建物や作品を場に溶け込ませつつ、場の力を高める人。モニュメント派、場の力は関係なく、建物や作品自身を、自体を目立たせ。コモンズ派、建築物や空間をコモンズ、地域社会の共有地として捉えて、建築物や空間を新しい生活や文化を生み出すダイナミックな場として認識をする』と。こういうタイプがあります。それぞれの建築家が、どれに入るかというのは頭に浮かびますが、あまり言うと、語弊がありますので言いませんが。『モニュメント派の究極というのは、場の力と対立したもの、対極にあるものを意図して持ち込んで、それで自分の作品を際立たせるタイプです』。ですから、田園空間の中にドーンと大きいものを建てるっていう、建築をご存知の方は誰かっていうのをすぐ想像できると思いますけど、そういうものをつくる方がいます。

で、これ、私の考え方ですけども、これ、作品の制作者ですね。これが作品をどこかの空間に置くときは、作品と空間の関係性について、制作者の意思はある程度反映されます。制作者が誰かに依頼して、ここに置いてくださいねとか言われたときは、どんなものを置こうかと考えるし、自分の作った作品をどこかに置きたいと思ったら、どこがいいかなと考えることができます。制作者ですね。ところが、ルノアールはもういません。で、この作品の制作者でない者がルノアール像を今ある場所に置いているわけです。そのときは、作品と空間の関係性について相当な考慮が必要だと思います。何が言いたいかというと、ルノアール像があのある場所にあるのが、本当にこの作品と空間の関係性において良いのかどうかということは、やはり議論の余地が、私はあると思っています。

今回、いろいろ、皆さん取り上げてくださったので、ワイドショーでも取り上げてくださったので、ルノアールの裸婦像が、あそこにあるかどうかの問題についての私の見解どうのこうのよりも、今回のことを通じて、こういう公共空間に、こういうアーティストの作品を置くことについての、作品と空間の関係性は一体どんなもんなんだろうかっていうのを、もうちょっとよく議論した方がいいわけです。何か表面的な話じゃなくて、やはりアーティストの思いというところをしっかりと考えた上で、どうするかというのを考えた方がいいと思います。したがって、今ある、例えば、駿府城公園の周りもいっぱい彫刻がありますし、それから、もちろん駅の南口にはルノアール像がありますけど、それについてすぐさまにいいとか悪いとか、どこに置くんだとそんな話をするんじゃなくて、やはりこの作品と空間の関係性というのをよく見た上で、どうしたらいいのかなっていうことを考えるということが、この公共空間を、これから我々整備していきますけども、南口もこれから再開発していくわけです。そういうときに、仮に作品を置くのであれば、このことをしっかりと考えていくっていうことが

大事だと思っていますので、そういったことをちゃんと議論すると言いますかね、意見交換をするっていう機会になればいいかなと思っています。聞かれていないですけど、あえて申し上げました。もう 1 回申し上げますが、私、絵画鑑賞が趣味で、家の中にはいっぱい本がありますけども、たまたま今日だと、さっきの秋元さんの本と、新書を 3 冊持ってきましたが、私が最初に、この美術について勉強し始めたのは、高階秀爾先生、この間、亡くなりましたけど、お亡くなりになりましたけど、この方の講演を聞き、そして、その方の著書を読んで、絵画というのはこういうことかということを読んで、それから、この絵画の世界にどっぷりはまり込みましたので、私が絵画について全く知らないわけではありませんし、ルノアールが、どういう、誰を尊敬していたかとか、その話もちろん、ある程度美術史についても知っておりますので、そういった上で、その辺はどうでもいいですけど、ここの作品と空間の関係性について、特に作品と公共空間の関係性について、もう少し、しっかりとした議論を我々はしていく、市の職員もしていくべきだと思っております。以上です。ありがとうございました。聞かれてもないですけど、余計なことを申し上げました。

◆司会

では、以上で本日の定例記者会見を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◆市長

どうも、ありがとうございました。

◆司会

次回は、1 月 9 日、木曜日の 11 時からとなりますので、よろしくお願いいたします。